

6月チャプレン便り

あまやど 「雨宿り」

ある本に、このようなことが書かれてありました。

「雨宿りをするために入った木陰で、思いがけなく木の実を発見することがある。」

これは、人生には、様々な試練や艱難というものがあるって前に進むことができず、「雨宿り」を余儀なくされる状況があるということ、しかしその「雨宿り」も仕方次第では「木の実」という他では得られない収穫をもたらす得ると言うことを教えている言葉です。つまり、人生には雨天もまた大切な意味を持っているということなのです。

しかし私たちの社会では、どこか「雨宿り」などをしてはならない、といったような価値観や人生哲学が、職場はもとより学校にも家庭にも、しっかり根を下ろしているかのように思えます。何か思いがけない問題に直面していきづまり、挫折したりしたような場合、再出発に備えてゆっくり休んで考えたりすることができるような、精神的な状況があるでしょうか。

あのスイスの有名な心理学者ユングは、かつて精神障害に冒され、勉強も仕事も手につかないような状態にありました。その時彼が何をしたかという、一人海に行き、そこで砂遊びをしました。何日も何日も砂遊びをしました。そうして、自己再生し、自分を取り戻していったのです。その経験が、彼をして、偉大な心理学者にしたのでした。

聖書には、「私の恵みは、あなたに十分である。というのは、私の力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」(第Ⅱコリント12:9)と書かれてあります。この言葉の意味は、私たちの弱さや未熟さなどのゆえに余儀なくされた「雨宿り」というものは、当座は辛く悲しい出来事であっても、それは本当の意味で強くされるということです。周囲の者が日の当たる晴れた道を歩んでいるとき、自分だけが雨宿りをして待つのは少々辛いかも知れませんが、しかし信仰に立つとき、それは決してマイナスではないのです。